

学校だより



稲荷台

令和8年9月30日

10月号

横浜市立稲荷台小学校

「期分け式」

学校長 中村 公俊

10月9日（金）に「期分け式」を行います。

「期分け式」という言葉を聞いて、あまりピンとこない方も多いかと思います。始業式や終業式など「学期を分ける式」を総称して「期分け式」と呼びます。

横浜市立学校では、1年間を3つに区切る学校と、2つに区切る学校があります。3つに区切る、すなわち「3学期制」は、すぐにイメージがわくのではないのでしょうか。1学期を4月から7月の終わりまで、夏休みをはさみ9月から12月までを2学期、冬休み後の1月から3月までを3学期とする、オーソドックスな形です。一方、「2学期制」は、4月から10月の上旬までを前期、10月中旬から3月までを後期とし、前期・後期の2期で学校を運営する形です。最近では、横浜のほとんどの小学校が2学期制をとっています。少し難しい話になりますが、「横浜市立学校の管理運営に関する規則 本則」のなかに「前期を4月1日から10月の第2月曜日まで」「後期を10月の第2月曜日の翌日から翌年3月31日まで」と決められています。

では、どうして2学期制を行うのでしょうか。大きく2つの理由が挙げられます。1つは、学習の連続性の確保です。2学期制を行うことで夏休み前と後などで学習に区切りをつけず、1年を通し継続して学習を進めることができます。前期・後期の間も週末をはさむのみですので、「ここでいったん終わり」としなくて済むわけです。もう1つは、授業時間数の確保です。20年ほど前までは土曜日にも授業が行われていました。これが、社会の流れを受けて学校も週2日の休みとなった結果、授業のできる日にちが減少しました。さらに最近では、外国語学習や情報機器（コンピューター等）を使った学習など指導内容の増加も重なり、少しでも行事等（始業式や終業式）を減らし、時間数を確保する必要が出たためです。前期の終業式を金曜日に行い、後期の始業式を翌週初めに行うのに2時間かけるよりも1つにまとめ「期分け式」とし、時間数の確保と、学習の連続性をさらに担保しようというわけです。



先ほども述べましたが、本校では10月9日（金）に期分け式を行います。式では、1年生、3年生、4年生の代表児童が前期の学習や生活を振り返り、後期の学習や生活への希望や意欲を發表します。式を通して、お互いに成長を喜び合い、後期に向けてのステップにつなげられたらと思っています。

○夏と秋が行ったり来たりして、
植物も困っているようです。